

第2節 市域の概況

第1 地理的条件

1 位置

本市は、大阪府南西部に位置し、大阪都心から約25km、関西国際空港から約20kmの距離にある。

市の位置・広さ・標高・面積

位 置	東 経	135° 25' 25"
	北 緯	34° 29' 01"
広 さ	東 西	6.9km
	南 北	18.8km
標 高	最 高	885.7m
	最 低	4.0m
面 積		84.98km ²

2 地勢

本市の地形は、南部が和泉山脈よりなる山地で、これに続く中部が傾斜のゆるい丘陵地であり、北部が大阪湾に向かって広がるなだらかな平地である。

河川は槇尾川・松尾川の二級河川が、南部の山地から北部の平地に向かって流れている。

ため池は、中部の丘陵地を中心に大小231箇所（台帳管理されているため池を対象にカウント。水防ため池59箇所、一般ため池172箇所）が散在している。

第2 地質構造

1 地質

本市の地質は、沖積層・洪積層・段丘層・領家花崗岩・和泉層群等より構成されている。

北部の平地は沖積層となっている。中部の丘陵地は主に洪積層・段丘層からなっているが、槇尾川・松尾川の流域には沖積層もみられる。一方、南部の山地は領家花崗岩・和泉層群からなっている。

2 活断層

本市の直下には、国土地理院活断層図により坂本断層、久米田池断層の2つの活断層の存在が、確認されている。活断層の存在が即、直下型地震につながるとは一概にはいえないが、それらの存在を念頭に入れ、引き続き、なお一層の地震への備え、対応について対策を推進する。

第3 気象

本市の年間平均気温は16.5℃であり、雨量は、年平均1,232.9mmである（大阪管区気象台 堺（統計期間：1991-2020年）平年値）。

また、台風は、年に3度程度接近している（接近とは台風の中心が近畿地方のいずれかの気象官署から300km以内に入った場合を指し、接近数は近畿地方の平年値を指す）。

第4 社会的条件

1 人口

本市の人口は、令和3年1月末日現在185,118人となっている。

「トリヴェール和泉」を中心とした住宅開発の進展により、人口が増加してきたが、本格的な少子高齢化・人口減少社会の到来の波は非常に大きく、本市においても、人口の減少は避けられない状況にある。

年齢別では、年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15歳～64歳）が減少し、老年人口（65歳以上）が増加している。

（各年10月1日現在、国調調べ）

年	人 口	世 帯 数	一世帯あたり 人 員	老 年 人 口		
				人 口	割 合	全国割合
平成2年	人 146,127	世帯 42,900	人 3.4	人 13,548	% 9.2	% 12.0
7	157,300	49,686	3.1	17,215	10.9	14.8
12	172,974	57,804	2.9	21,924	12.6	17.3
17	177,856	62,047	2.9	28,000	15.7	20.1
22	184,988	68,342	2.7	34,510	18.6	23.0
27	186,109	71,013	2.6	42,145	22.6	26.6

第5 過去の主な災害

本市における主な風水害被害と、府の主な地震被害は資料編に掲載のとおりである。

資料編 ○ 1－1 近年の災害時における和泉市内の被害状況
 ○ 1－2 府における主要被害地震